

阿寒国立公園

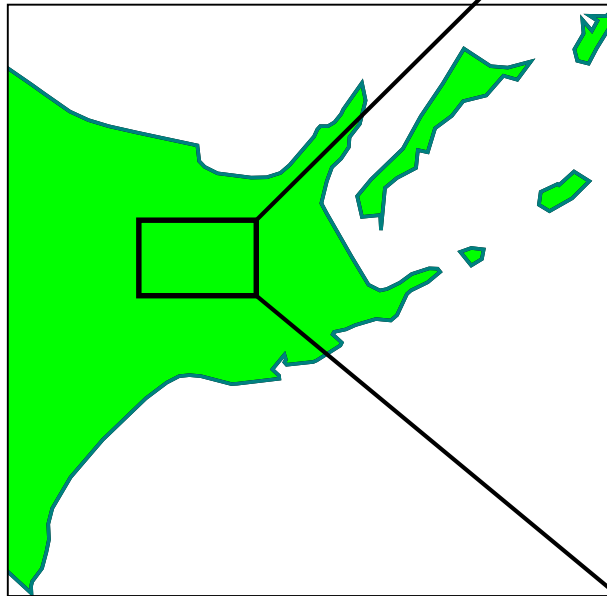
公園区域及び公園計画の変更
(第5次点検)

阿寒国立公園の概要

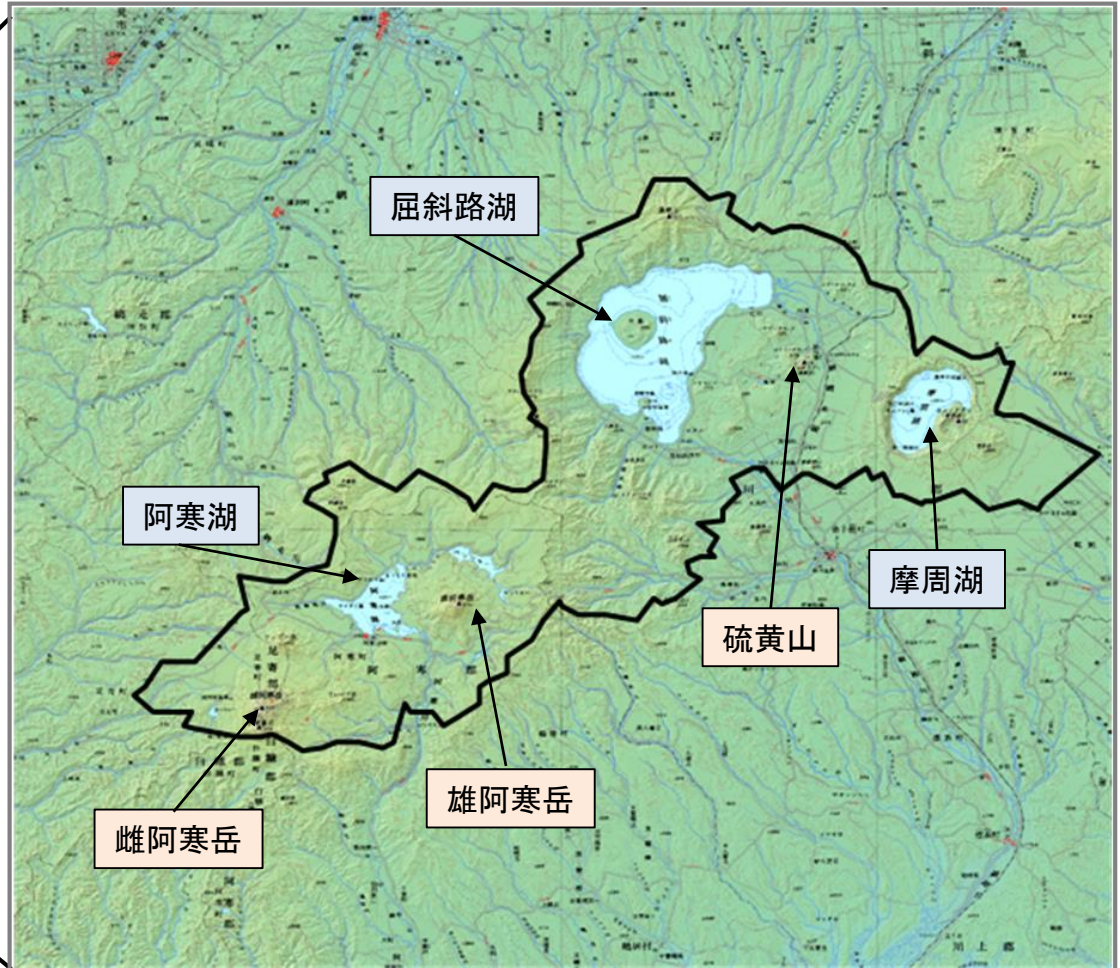
指定
面積

昭和9年12月4日

90,481ha (すべて陸域)



北海道東部



阿寒国立公園(既存指定範囲)

阿寒国立公園の概要



硫黄山



森林景観

『日本最大のカルデラ地形、火山・森・湖が織りなす広大な景観』



カルデラ・湖沼の景観



文化的景観
(アイヌコタン)

阿寒国立公園の主な経緯

昭和9年 阿寒国立公園指定

昭和13年 特別地域の指定

昭和29年 特別保護地区の指定

昭和52年 公園計画再検討(地種区分設定)

昭和62年 公園計画第1次点検

平成2年 馬車等乗入れ規制地域等指定

平成5年 公園計画第2次点検

平成10年 公園計画第3次点検

平成15年 公園計画の変更(公園事業の追加)

平成25年 公園計画第4次点検

平成29年 公園計画第5次点検(今回)

H17 ラムサール
条約登録
(阿寒湖)

阿寒国立公園 今回の変更について

今回変更の重要ポイント

① 神の子池及びその周辺の公園区域への編入 **(公園区域の変更)**

摩周カルデラ北側外輪山麓に位置する神の子池を含む集水域の風景地の保護及び適正な利用の増進を図るため公園区域に編入する。

② 摩周カルデラ北側外輪山の地種区分の変更 **(公園計画の変更)**

摩周湖(特別保護地区)を取り囲む第1種特別地域と同等の自然植生を有すること及び、拡張する神の子池の集水域であることを踏まえ、摩周湖及びカルデラ壁を含む地域の風致を維持する必要があるため、**第2種特別地域から第1種特別地域**へ地種区分の変更を行う。

③ 神の子池周辺の利用施設の位置づけ **(利用施設の追加)**

今回、新たに公園区域に編入する神の子池及びその周辺における適正な利用を図るため、**裏摩周線(道路)の延長、神の子池線(道路)の新設及び園地**を計画する。

④ 『阿寒摩周国立公園』へ名称変更

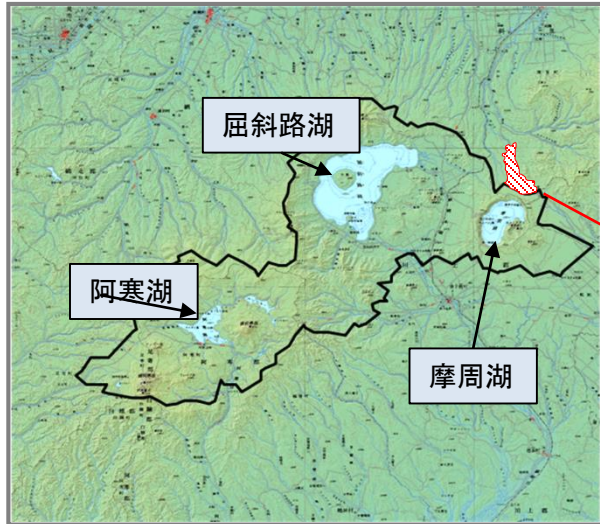
名称変更の要請が高まり、変更の必要性、地元の合意、わかりやすさ、影響等を総合的に検討を行った結果、今回名称の変更を行うもの。

阿寒国立公園 今回の変更について

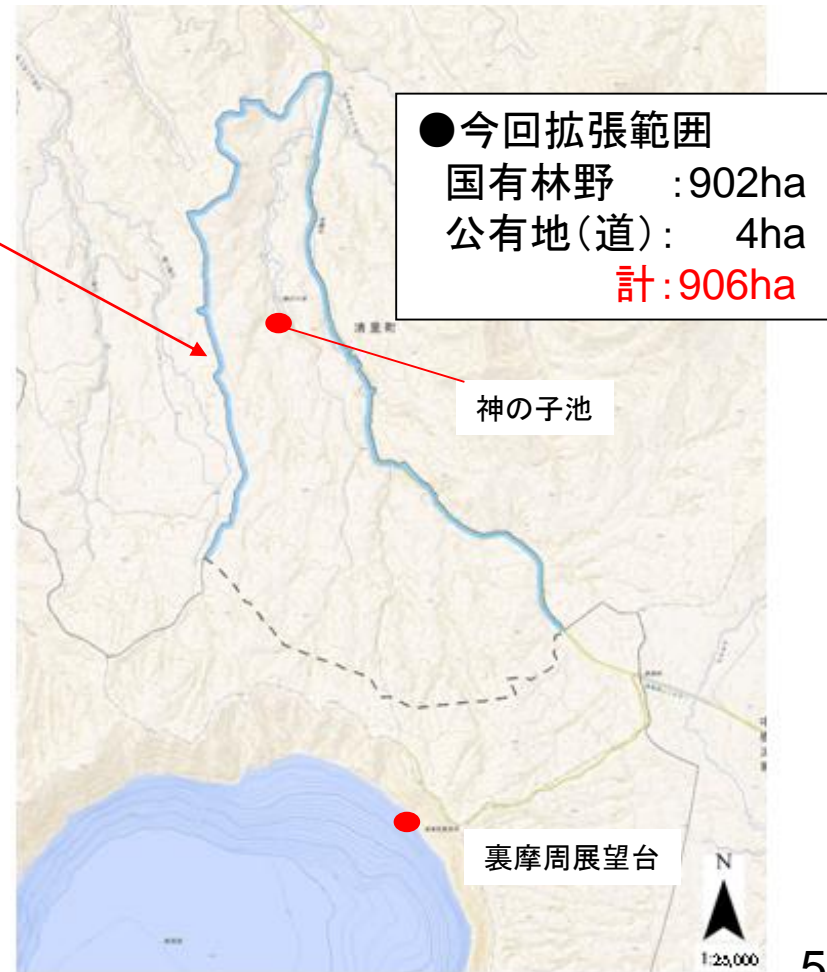
- ① 神の子池及びその周辺の公園区域への編入
(公園区域の変更)

阿寒国立公園 今回の変更について

① 神の子池及びその周辺の公園区域への編入 **(公園区域の変更)**



摩周カルデラ北側外輪山山麓に位置する神の子池を含む集水域について、風景地の保護及び適正な利用の増進を図るため公園区域に編入する。



神の子池周辺の森林景観

阿寒国立公園 今回の変更について

① 神の子池及びその周辺の公園区域への編入 **(公園区域の変更)**



神の子池

- 景観要素: 摩周カルデラが生み出す伏流水により形成された湖沼
- 利用拠点: 神の子池畔における木道整備や裏摩周展望台との一体的な利用



阿寒国立公園摩周湖周辺地域と保護・利用の一体性が見られる。

すでに一体的な利用がされている



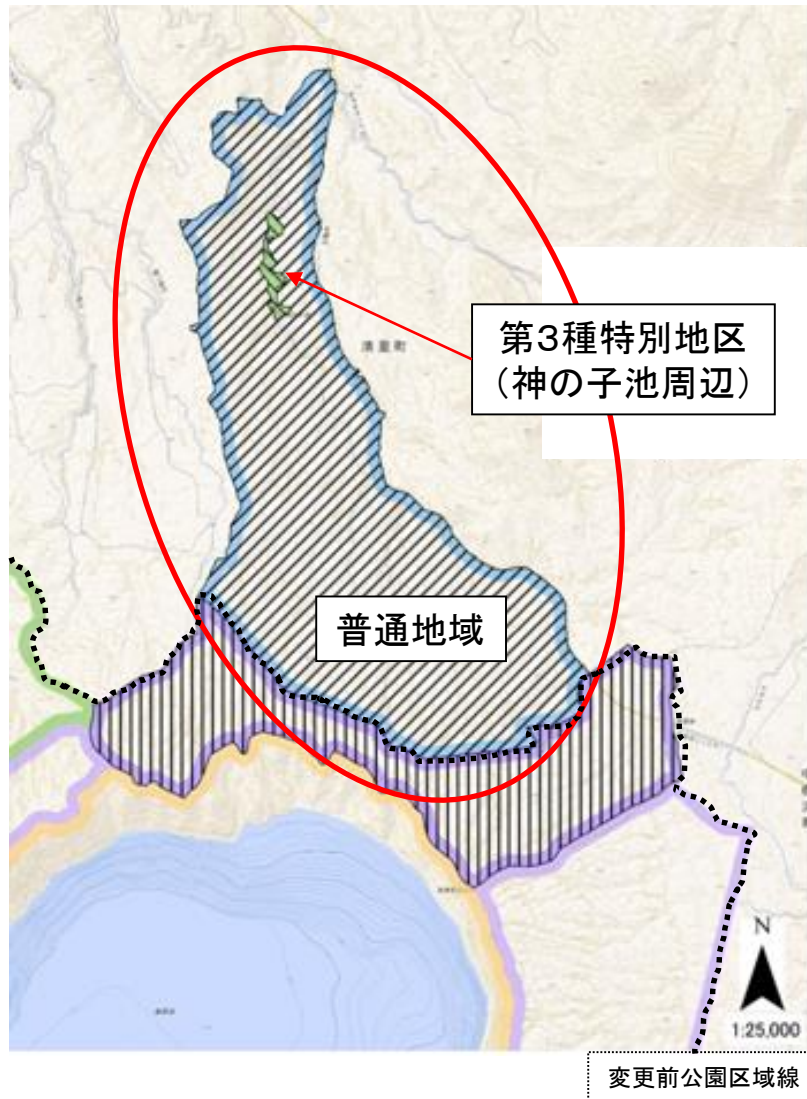
裏摩周展望台



神の子池の木道

阿寒国立公園 今回の変更について

① 神の子池及びその周辺の公園区域への編入 (公園区域の変更)



●今回拡張部分のうち、特に神の子池の風致の維持及び適正な利用を図るため、神の子池周辺は第3種特別地域とし、周辺の集水域については人工林施行等、土地所有者との調整により、普通地域を計画する。



神の子池

阿寒国立公園 今回の変更について

② 摩周カルデラ北側外輪山の地種区分の変更 (公園計画の変更)

阿寒国立公園 今回の変更について

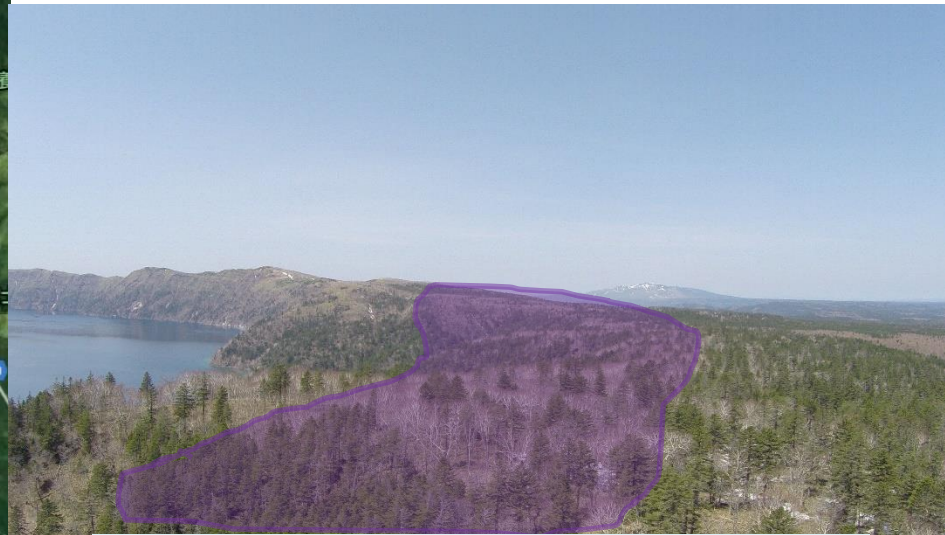
② 摩周カルデラ北側外輪山の地種区分の変更 (公園計画の変更)

● 自然環境

アカエゾマツ、ダケカンバを主体とする針広混交林が広がる。
キビタキ、アカゲラ等森林性鳥類が数多く生息。

● 今回変更範囲

国有林野 : 465ha
計: 465ha

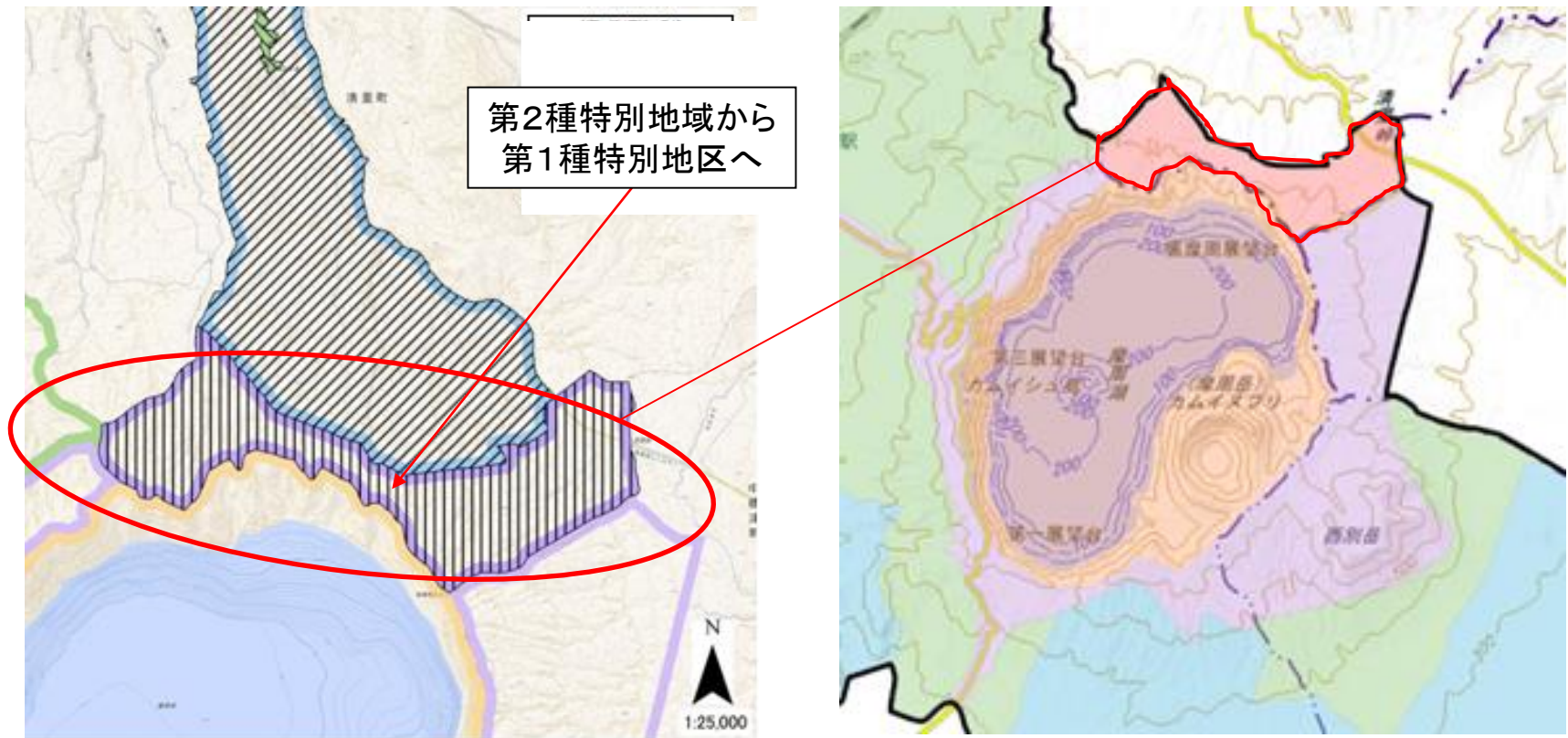


摩周カルデラ北側外輪山の地種区分変更箇所
(第2種特別地域⇒第1種特別地域)

阿寒国立公園 今回の変更について

② 摩周カルデラ北側外輪山の地種区分の変更 (公園計画の変更)

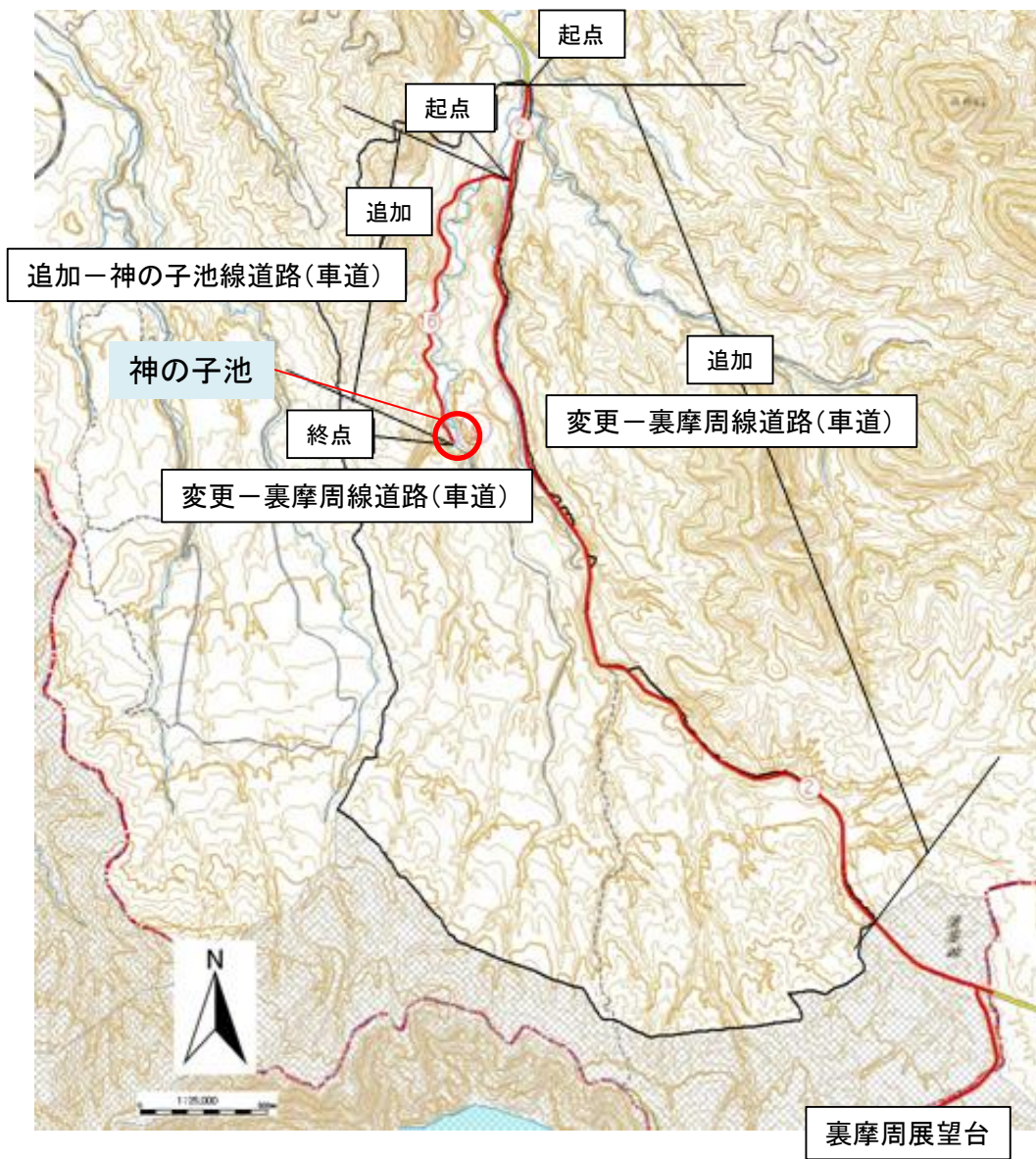
摩周湖(特別保護地区)を取り囲む第1種特別地域と同等の自然植生を有すること及び、拡張する神の子池の集水域であることを踏まえ、摩周湖及びカルデラ壁を含む地域の風致を維持するため、**第2種特別地域から第1種特別地域**へ地種区分を変更する。



③ 神の子池周辺の利用施設の位置づけ (利用施設の追加)

阿寒国立公園 今回の変更について

③ 神の子池周辺の利用施設の位置づけ (利用施設の追加)

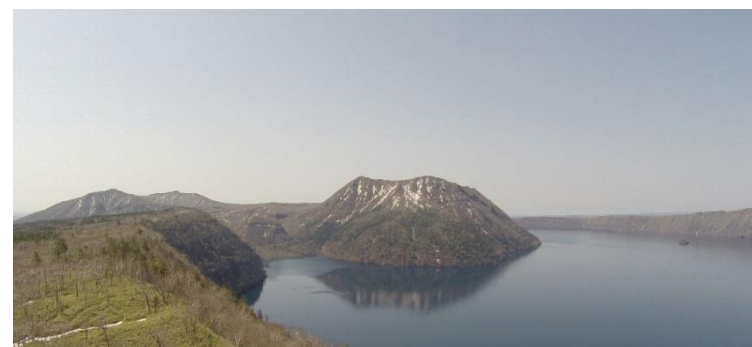


今回、新たに公園区域に編入する神の子池及びその周辺における適正な利用を図るため、

- ①裏摩周線道路(車道)
- ②神の子池線道路(道路)
- ③神の子池園地を計画する。



裏摩周線道路(車道)延長部分



裏摩周展望台からの眺望

阿寒国立公園 今回の変更について

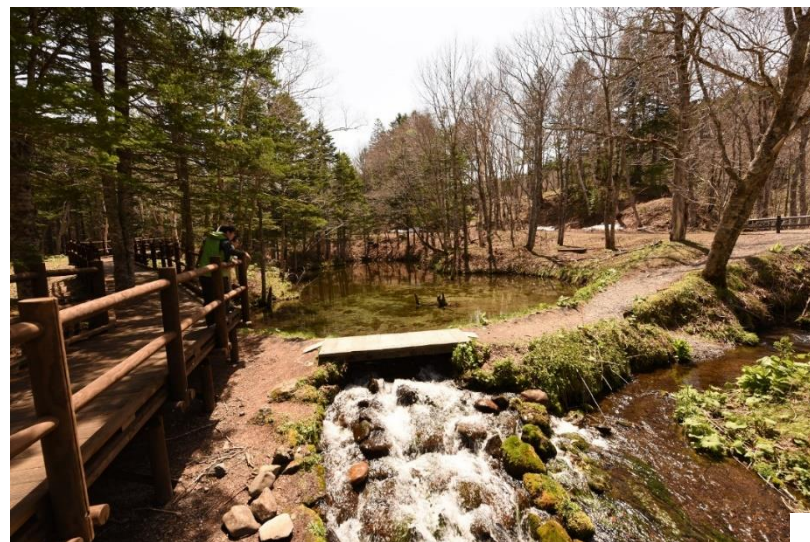
③ 神の子池周辺の利用施設の位置づけ (利用施設の追加)



町により整備された木道



神の子池手前1km地点の駐車スペース

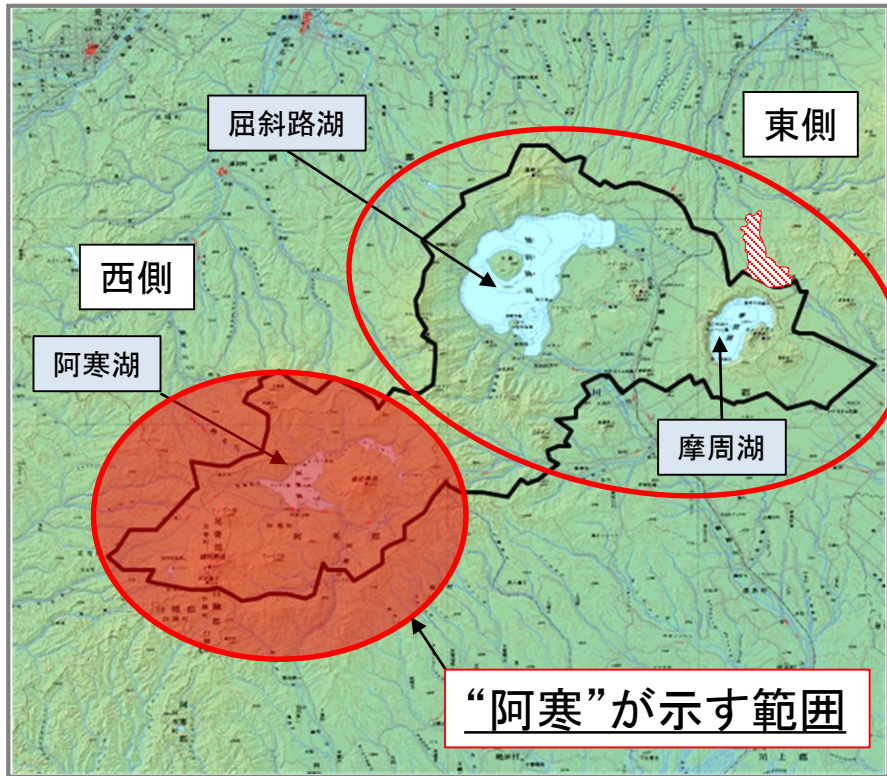


阿寒国立公園 今回の変更について

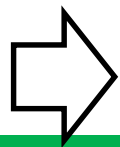
④ 『阿寒摩周国立公園』へ名称変更

阿寒国立公園 今回の変更について

④ 『阿寒摩周国立公園』へ名称変更



- 現状、本公園の西側の地名(阿寒)のみを用いており、本公園の地理的・自然的特性を表す名称としては、東側を代表する地名も併記することが必要(必要性)
- 阿寒湖及び摩周湖は両地域の自然性の高いシンボリック的存在として位置づけられ、受け入れやすく(妥当性)、関係11市町村の同意が得られていること(合意)。
- 「阿寒」と「摩周」を併記することで、これまでの阿寒のみの知名度に摩周の知名度が加わることの相互作用が働く(効果)。
- 拡張等により摩周湖周辺の保全強化や山麓部の利用の推進が図られること



以上より、“摩周”をいれた公園名とすることが妥当であり、以下の通り変更する

阿寒摩周国立公園

その他の変更について

① 区域線の明確化

河川改修により区域線が変更になった箇所
の明確化

② 利用施設の廃止

- ・未執行及び今後も見込みがない利用施設の廃止
- ・火山の影響により共用見込みがない歩道の廃止

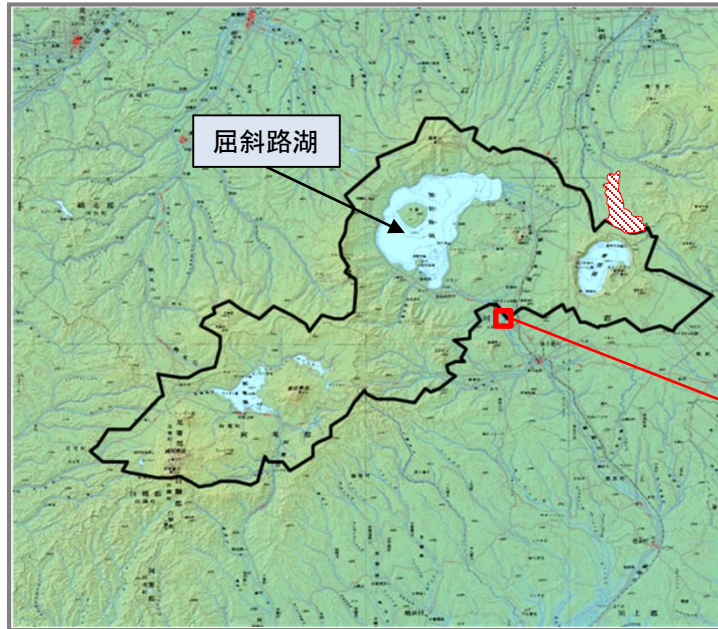
③ 既存利用施設及び周辺の軽微な計画変更

- ・既存スキー場の名称変更
- ・既存スキー場の夏期利用のための索道事業施設の計画
- ・休憩所施設の新規計画

阿寒国立公園 その他の変更について

① 区域線の明確化

河川改修により区域線が変更になった箇所の明確化



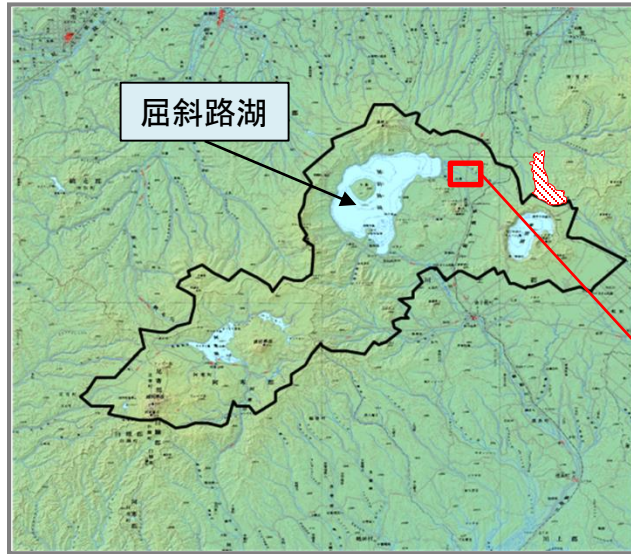
- 屈斜路湖を水源とする釧路川の河川改修に伴い区域線の明確化を行う。
- 合計26haの拡張



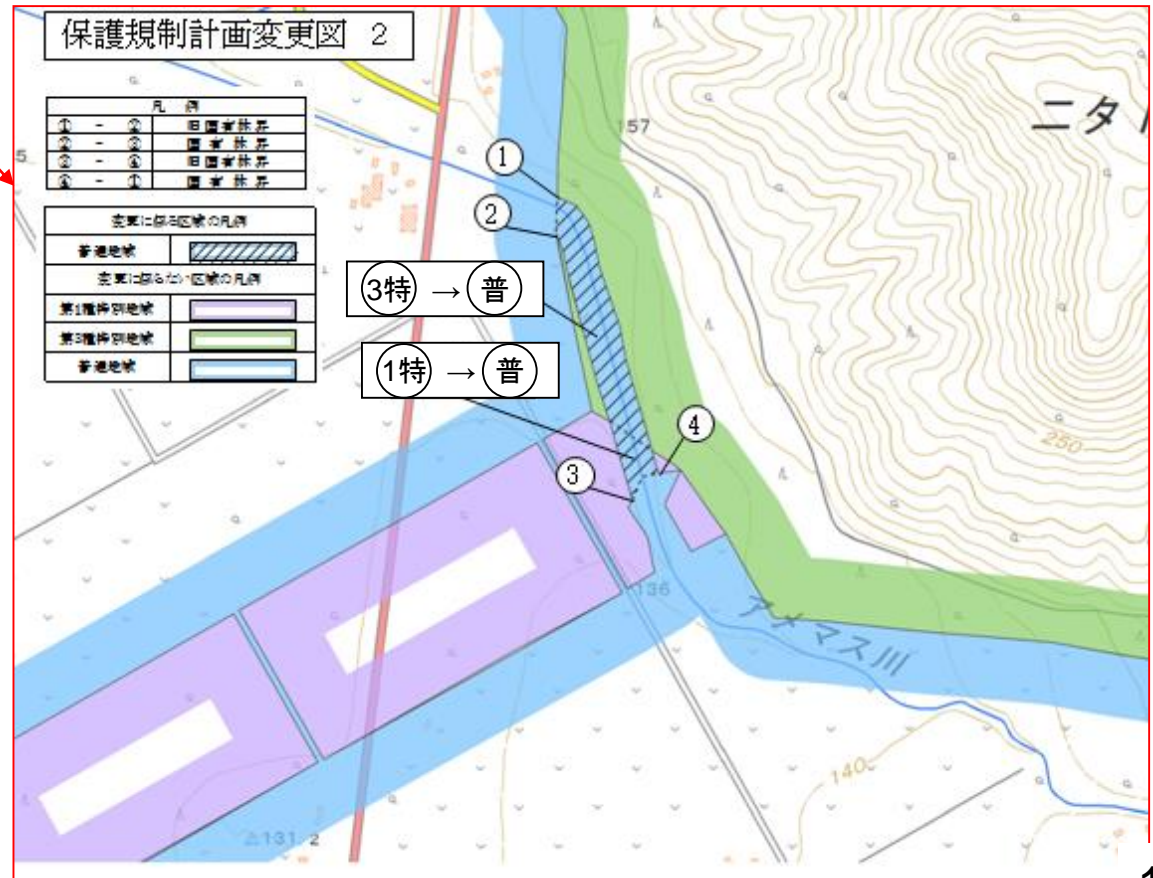
阿寒国立公園 その他の変更について

① 区域線の明確化

河川改修により区域線が変更になった箇所の明確化



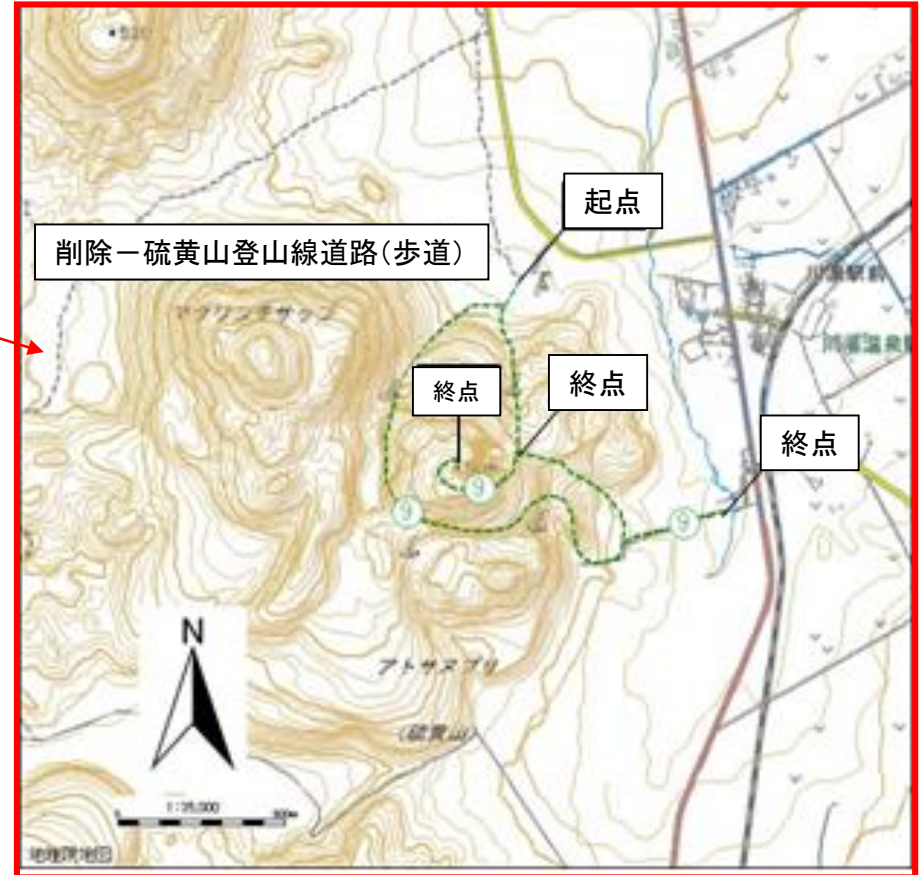
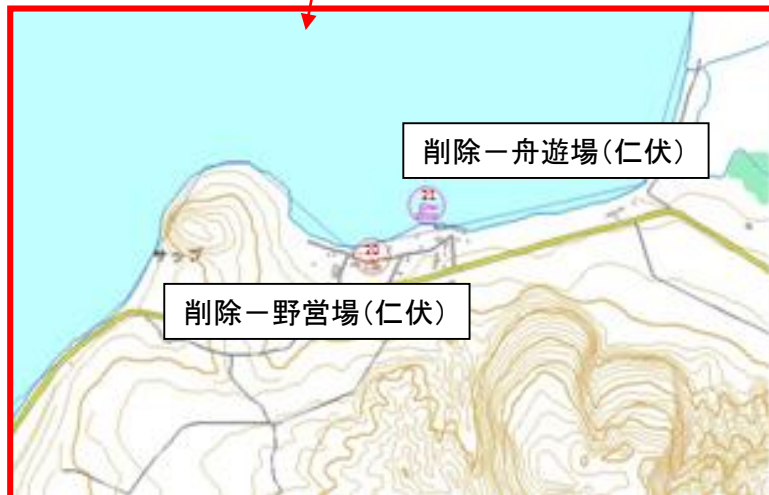
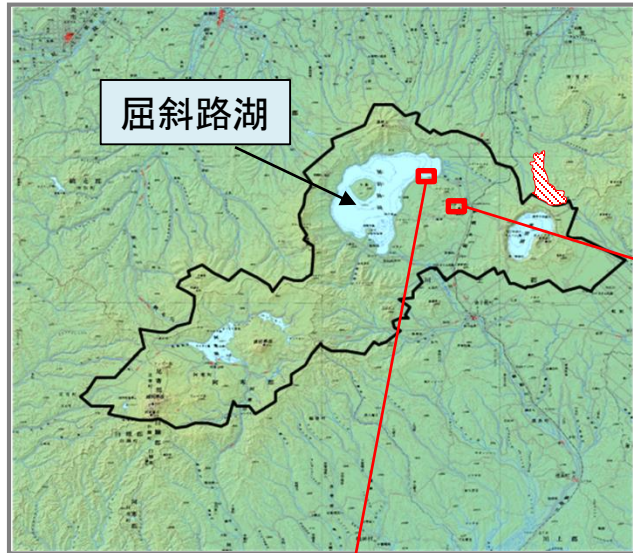
- 屈斜路湖に流入するアメマス川の河川改修に伴い、地種区分線の明確化を行う
- 合計2haの普通地域の変更



阿寒国立公園 その他の変更について

② 利用施設の廃止

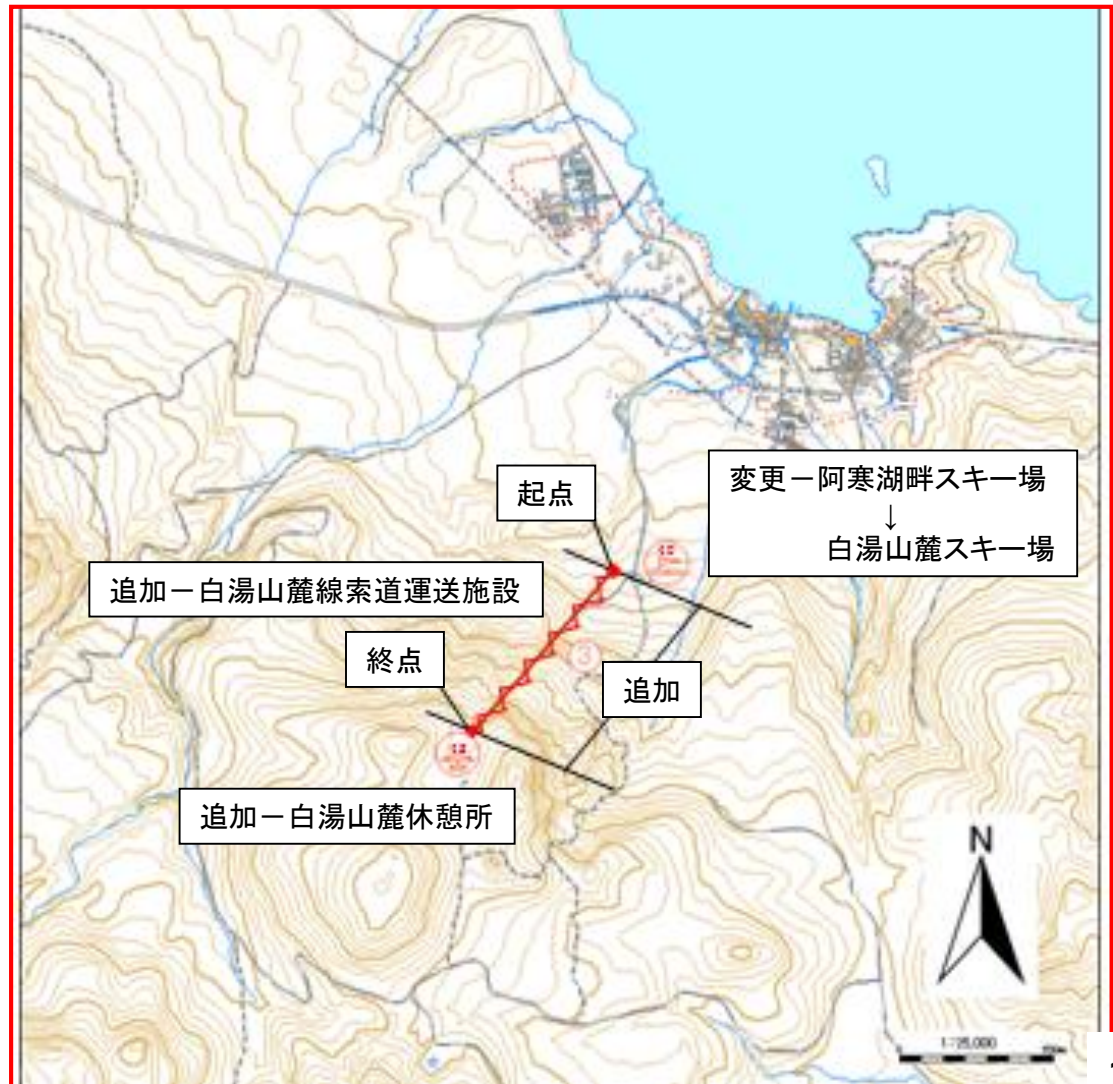
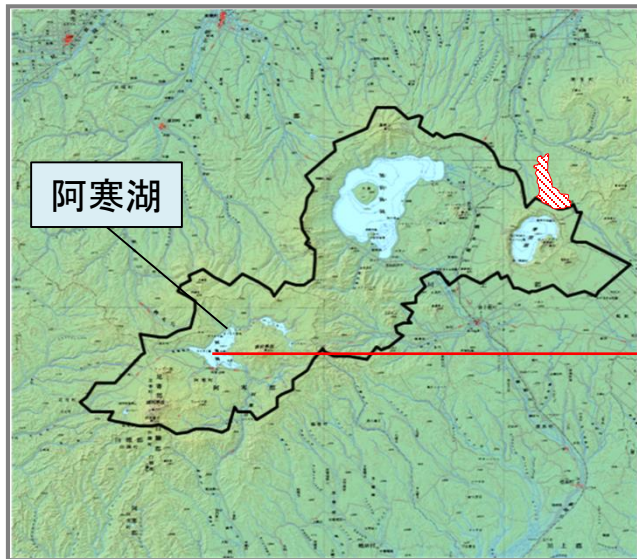
- ・未執行及び今後も見込みがない利用施設の廃止
- ・火山等の影響により立入禁止となっている歩道の廃止



阿寒国立公園 その他の変更について

③ 既存利用施設及び周辺の軽微な計画変更

- 既存スキー場の名称変更
- 既存スキー場の夏期利用のための索道事業施設の計画
- 休憩所施設の新規計画



パブリックコメントの実施結果

■概要

・実施期間 平成29年1月20日(金)～2月18日(土)

・意見募集の結果

【意見提出数】

電子メール、郵送、FAX 計 1 通

【整理した意見数】

今回の指定案にかかるもの 計 1 件

・意見の内容

参考資料1のとおり

道東3国立公園の連携について



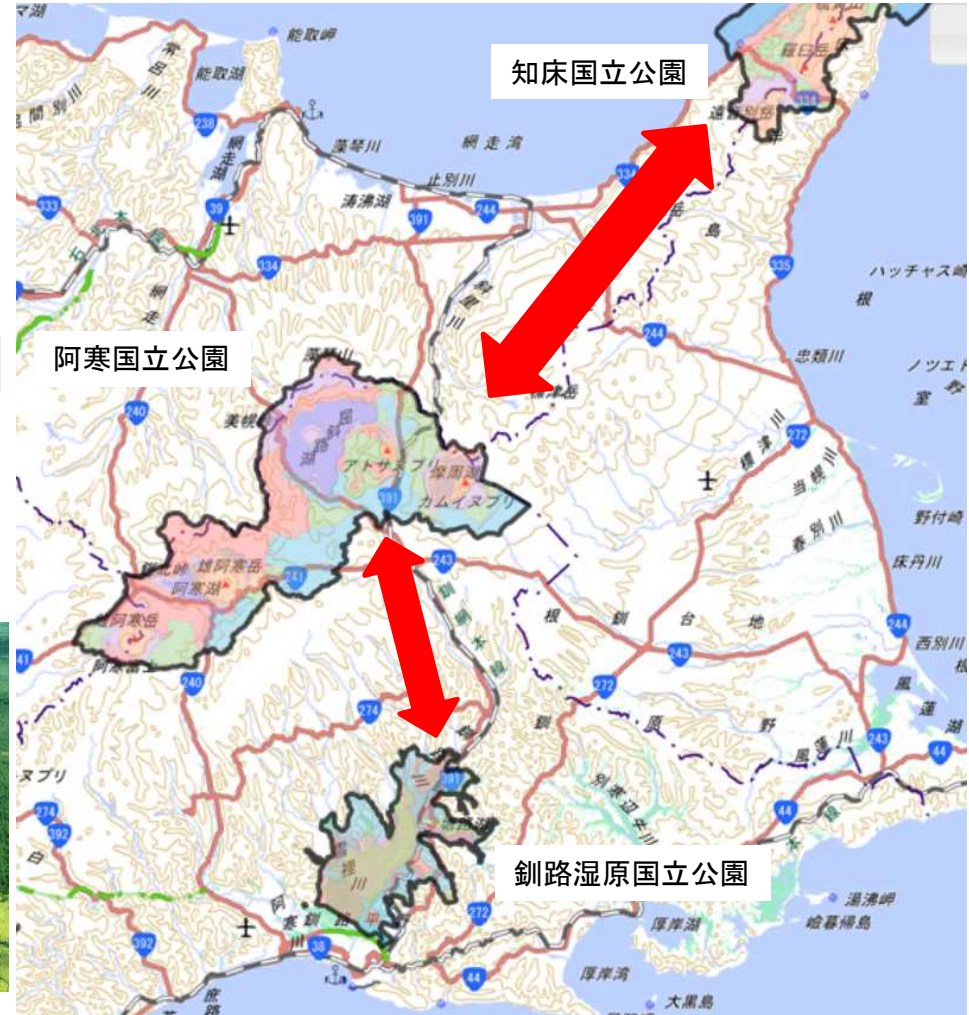
知床国立公園



阿寒国立公園(神の子池)



釧路湿原国立公園

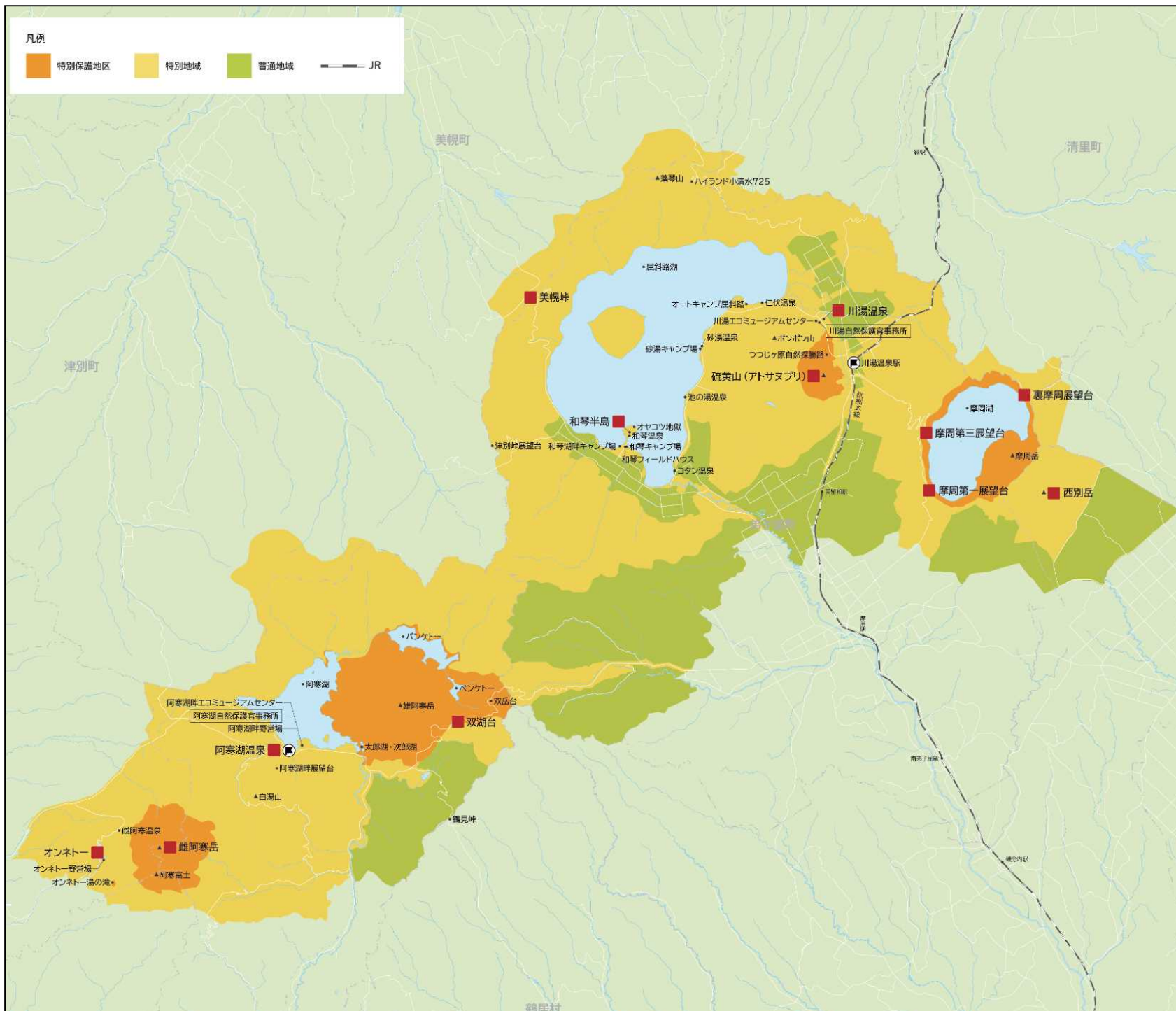


満喫プロジェクトにおけるビューポイント



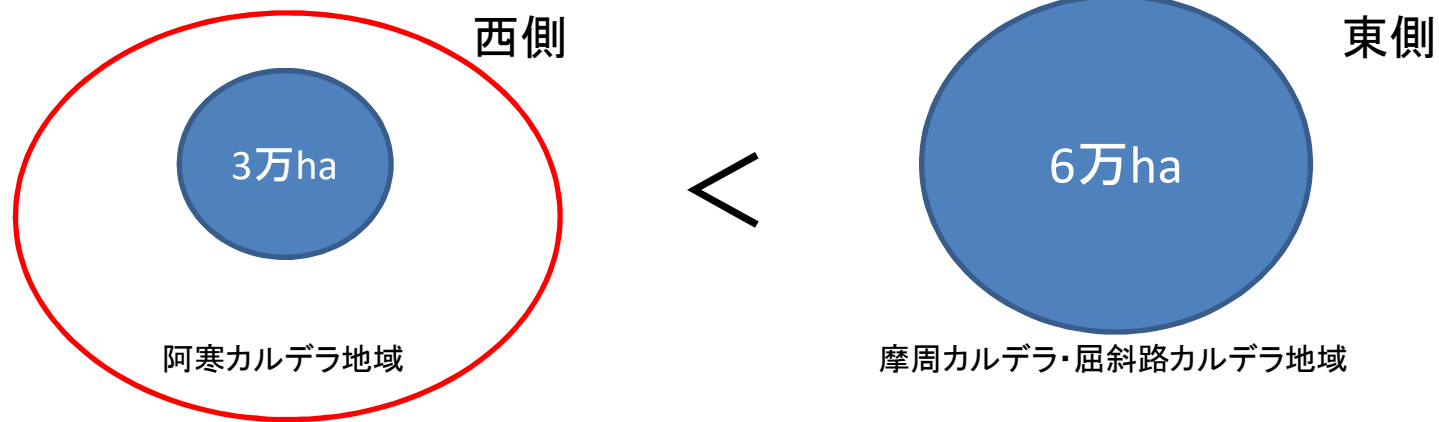
凡例

- 特別保護地区
- 特別地域
- 普通地域
- JR

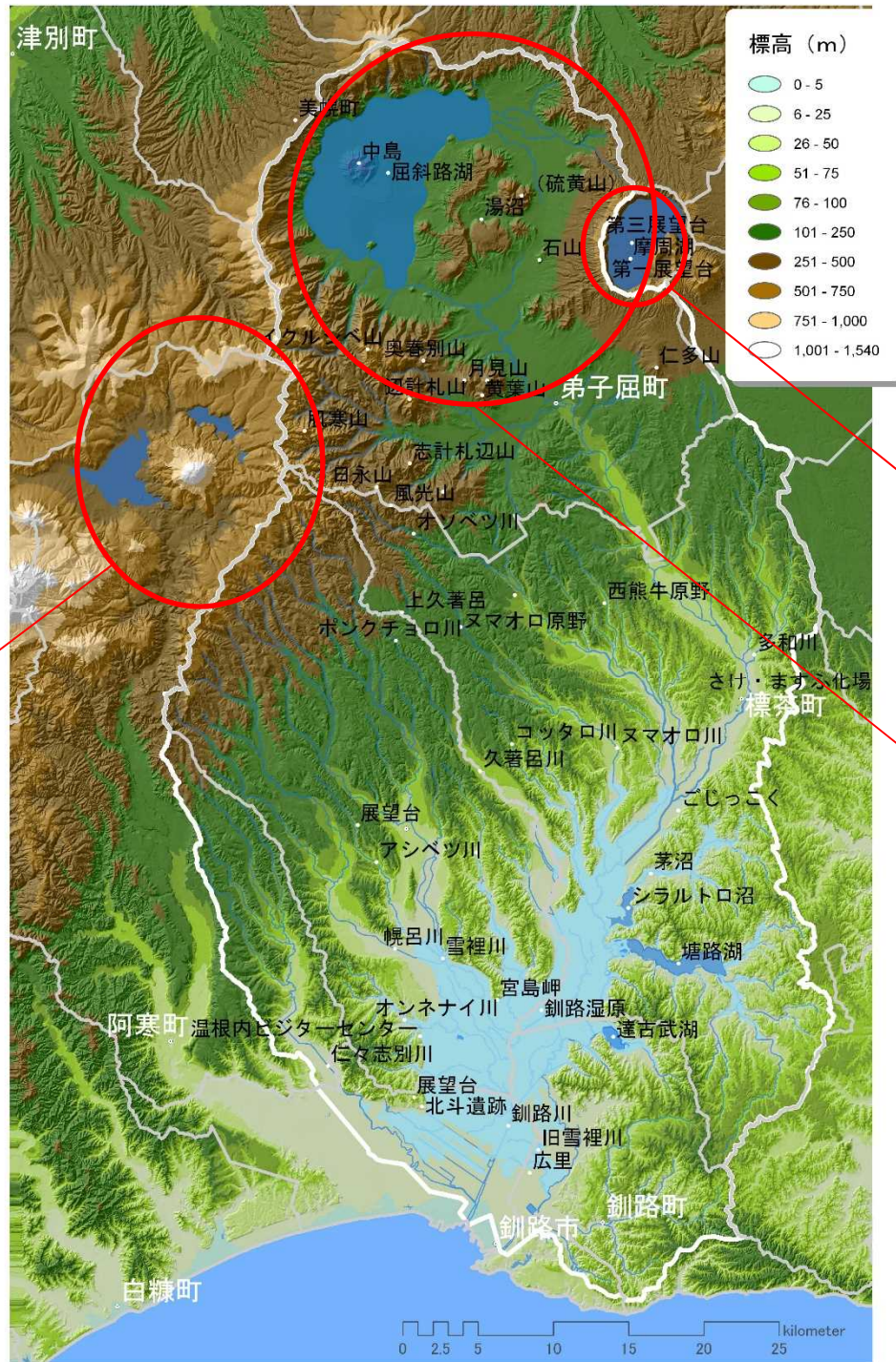


白湯山麓スキー場の様子





- 現状、本公園の西側の地名（阿寒）のみを用いており、本公園の地理的・自然的特性を表す名称としては、本公園の東側を代表する地名も併記することが必要。

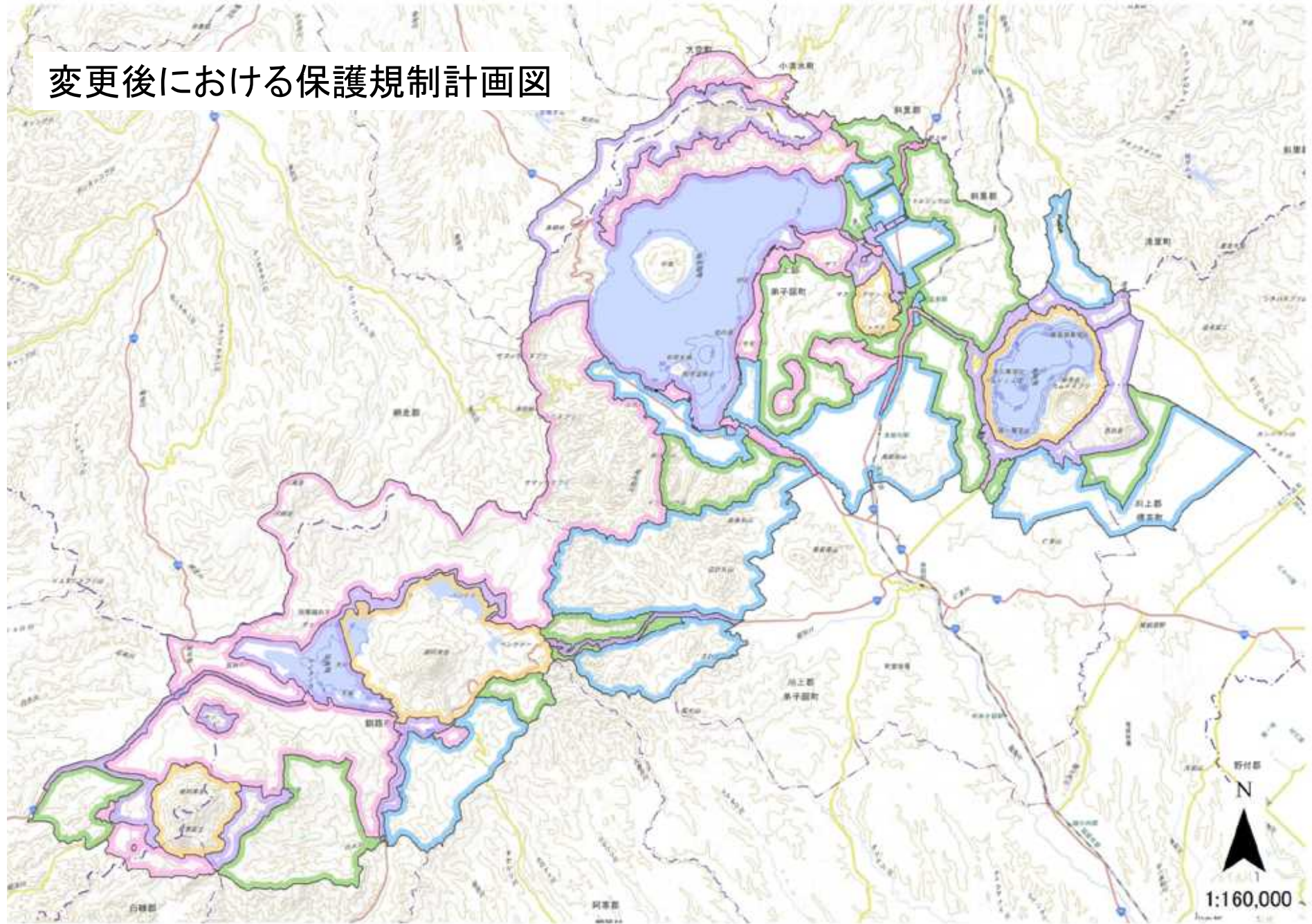


阿寒カルデラ

摩周カルデラ

屈斜路カルデラ

変更後における保護規制計画図



平成28年12月22日 自然公園小委員会にて諮問した事業決定等案件

阿寒国立公園

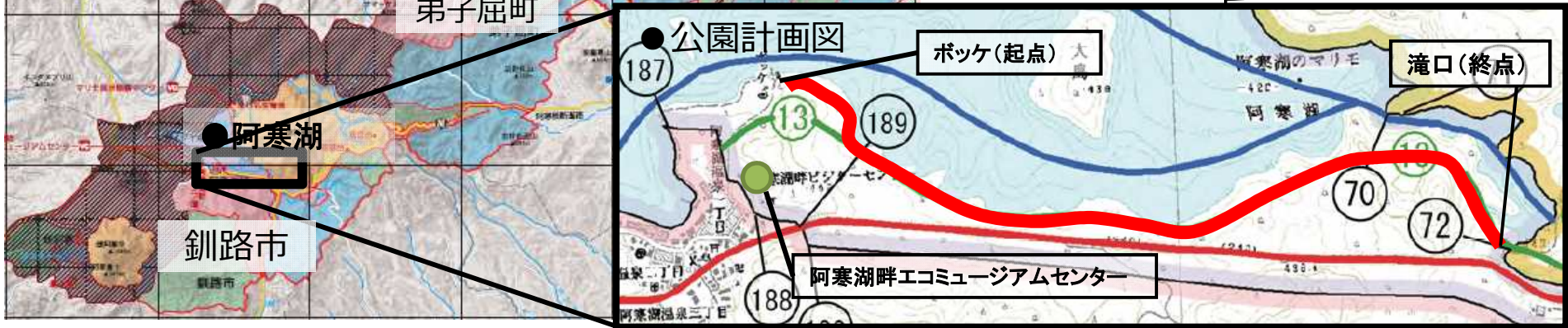
阿寒湖畔滝口線道路(歩道)

決定

路線距離 : 4km

執行予定 : 環境省

第1種特別地域 (国有林、道所有林)



- 当該歩道は、阿寒湖の南岸に位置し、阿寒湖畔集団施設地区と雄阿寒岳の登山口である阿寒川の滝口を結ぶ歩道である。
- 区間は針広混交林に覆われ、滝口周辺は一部火山性の地形となっており、起伏に富む。

決定内容：歩道の整備

事業規模：路線距離 4km

執行予定：環境省

- 阿寒国立公園満喫プロジェクト関連事業として、既にできている踏み分道を公園事業として把握する。良好な展望地、湿地帯、岩石地には、最小限の木道やデッキを整備する予定。
- 公園利用者へ、阿寒湖南岸部の原生的な自然を探勝できる場を提供
- 阿寒湖温泉と雄阿寒岳登山道をつなぐことにより、登山口へのアクセス方法、自然探勝オプションの多様化



自然環境への影響

- 付近にはクマゲラの食痕が見られるほか、ミズバショウやハクサンシャクナゲ群落等、貴重な自然環境が残されていることから、木道やデッキの整備に際しては、事前に環境調査を実施し、原生的な自然環境を損なうことがないように配慮。
- 湿地帯や溶岩地帯に木道等を設置する以外は、現状を極力残した樹林の中の歩道とし、風致へ配慮。



利用の際の注意点等

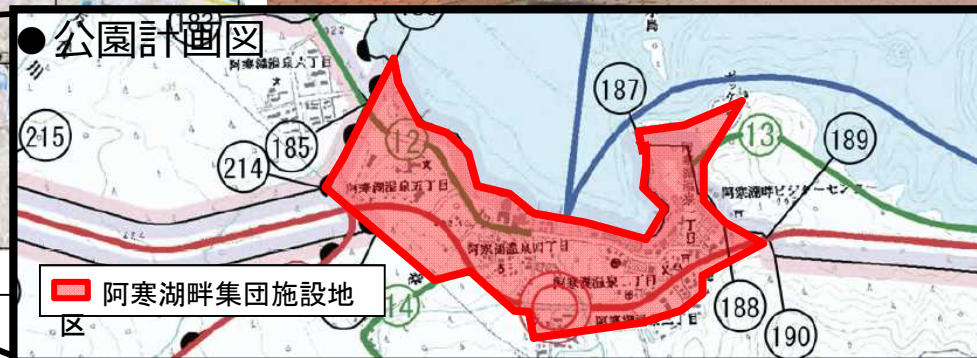
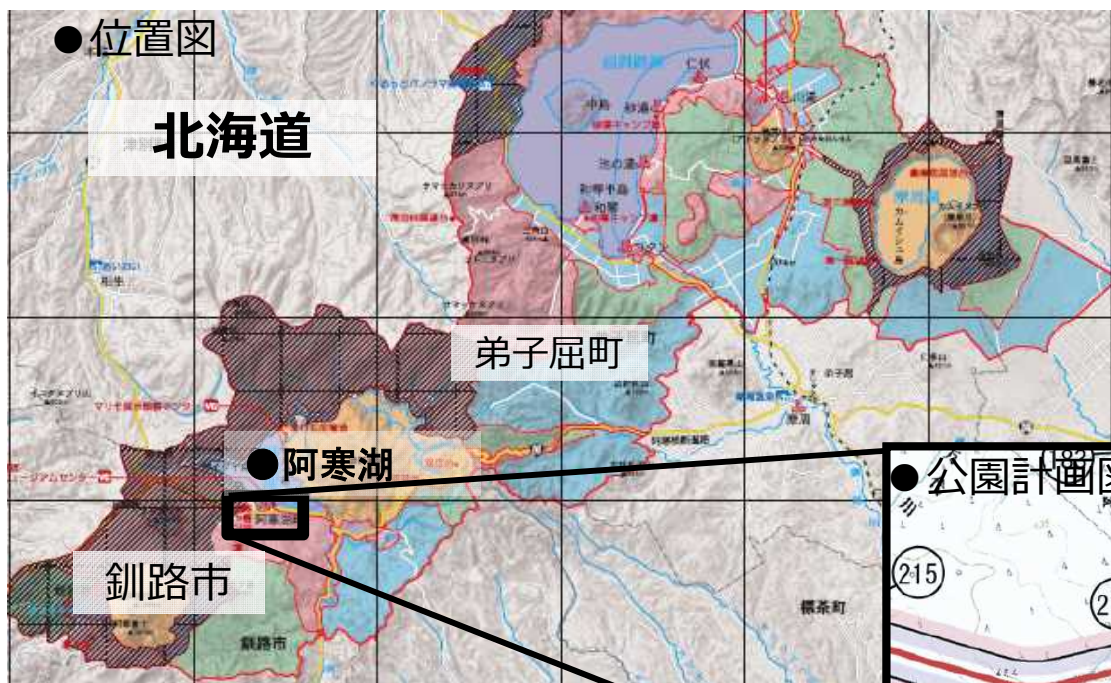
- 付近ではヒグマの生息が確認されているため、区間によってはガイド付限定の利用を検討する。

阿寒国立公園

阿寒湖畔園地、阿寒湖畔宿舎、阿寒湖畔駐車場

変更

第2種特別地域（民有地、国有地、公有地）

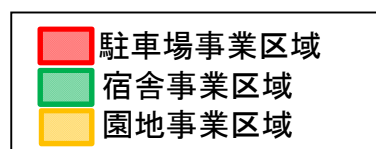
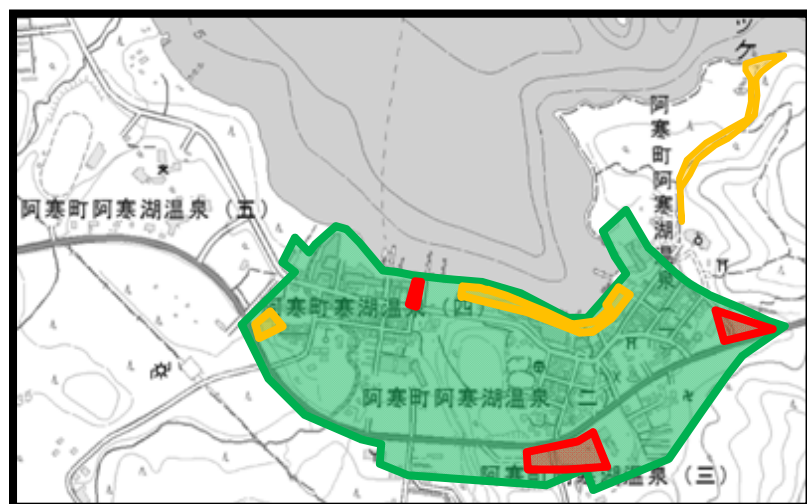


阿寒湖畔集団施設地区

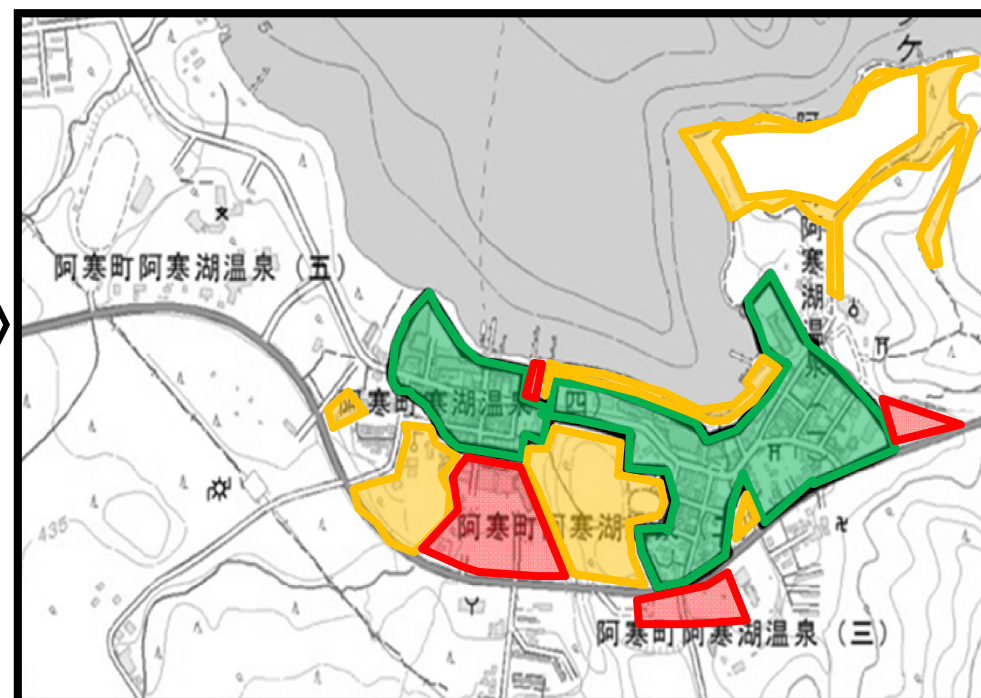
- 阿寒湖南岸部に位置し、周囲には亜寒帯性の原生林が広がる
- 阿寒地域の利用の中心部（阿寒湖温泉）であり、年間宿泊者数約60万人、主な利用形態は湯治、自然散策、観光船での湖上周遊、冬季間の氷上利用等

駐車場事業の変更に伴う整理

【変更前】事業決定区域図



【変更後】事業決定区域図



国立公園満喫プロジェクト関連事業

- 駐車場事業** → 駐車場の新規整備により、規模の拡大（区域面積：1.5ha→6.7ha）
- 宿舎事業** → 利用の実態に合わせ縮小（区域面積：39.9ha→13.8ha）
- 園地事業** → 集団施設地区内における構想等に基づき、実態に合わせ規模の拡張（区域面積：3ha→12.2ha）

阿寒湖畔駐車場 変更内容：規模の拡張

執行予定：環境省・北海道・民間

区域面積：1.5ha→6.7ha



- 既存駐車場の多くは国道を挟んで温泉街と反対側に位置するため、車利用の際の利便性が従前より課題
- そのため、地域DMO（NPO法人阿寒観光協会まちづくり推進機構）が観光振興基金財源を活用し、宿舎事業跡地（約4ha）において「森の駅ー阿寒・フォレスト・ガーデン」整備計画による民設民営の有料駐車場の整備を予定
- 植栽を積極的に行う計画となっており、景観に配慮



阿寒湖畔宿舎 変更内容：規模の縮小

執行予定：民間



区域面積：39.9ha→13.8ha

最大宿泊者数7,000人（変更なし）



○阿寒湖温泉の利用の中心は**団体**から**個人・グループ旅行**へ

平成17年の宿舎事業執行規模→ 8.1ha 宿泊収容人数6,863人/日

現在の宿舎事業執行規模 → 4.8ha 宿泊収容人数6,168人/日

○事業執行規模の縮小を受け、実態に合わせ事業決定規模（面積）を変更

→縮小分を駐車場及び園地に割り当て、**利用者の視点に立った機能的な配置**を目指す

阿寒湖畔園地 変更内容：規模の拡大

執行予定：環境省、北海道
釧路市、民間

区域面積：3ha→12.2ha



- 阿寒湖畔集団施設地区再整備基本構想（環境省）等により、**集団施設地区内において阿寒湖畔の自然をゆったり楽しむための園地整備等**が位置づけられている
- 宿舎事業執行規模の縮小分のうち必要規模を園地に割り当て、事業実施のための適正規模へと拡大（現在の園地事業執行規模→2.3ha）